

感動につなげる音楽科の指導

— 小学部音楽発表会の取り組み —

前日本メキシコ学院日本コース 教諭

北海道磯谷郡蘭越町立蘭越中学校 教諭 小林 真奈美

キーワード：音楽教育，音楽発表会

1. はじめに

音楽科では、昨年度まで基礎的な技能の習得について取り組んできた。子どもたちにより豊かな音楽体験を味わわせるためには基礎的な技能の習得が不可欠と考えるからである。2年間この課題に取り組んだ結果、子どもたちは授業の中で、基礎的な技能の習得に意欲的に取り組み、表現力も高まってきたと考える。

昨年度から小学部の「音楽発表会」、中学部の「合同合唱」を計画し、実施してきた。これは、基礎的な技能を身につけた子どもたちが発表をすることによって、身につけた技能の定着が図られ、表現力を高め、さらに感動を味わうことによって、さらなる音楽を愛好する気持ちを培うことができると考えたからである。

国際校である本校では、音楽に関わる行事が多い。これらの行事に参加した子どもたちの姿はとても満足感にあふれ、次回を心待ちにしている様子が見られる。発表すること、発表を鑑賞することが、授業だけでは味わわせることのできない満足感と感動を味わわせることができ、より豊かな音楽体験につながると考え取り組んできた。

2. 児童・生徒の実態

児童生徒は全体的に明るく素直で、表現活動については、抵抗感なく取り組む児童生徒が多い。ほとんどの児童生徒が技能の習得については意欲的に取り組むので、個人差も少なく、個人指導が必要な児童生徒は、各クラスに2～3名程度である。また、すべてのクラスでお互いが気軽に教えあう良い雰囲気がある。

小学1・2・3年生は、元気よく歌い身体表現を楽しんで行っているが、まだ音程感やリズム感が十分に育っていない児童も数名いる。

4・5年生については、安定した音程で歌うことができ二部合唱や合奏ができ意欲的に取り組んでいる。

6年生については、変声期を迎える児童もあり、発声の変換期にさしかかり、声量が弱くなる時期であるが、器楽を中心に意欲的に取り組んでおり、表現力も豊かになってきている。

3. 取り組みの内容

10月20日(土)の学習参観日に、「音楽発表会」を実施した(「音楽発表会」の実施要領については次頁資料参照)。

各学年の発表内容については、音楽発表会に向けて特別な教材を準備するのではなく、あくまでも日常の授業の延長線であり、授業の中で学習してきたことの発表であることを心がけて、子供たちや担任の先生方に負担のないようにした。発表する内容については、子どもたちの希望も考慮に入れながら1ヶ月ほど前に決定した。

初めて実施した昨年度に比べて、年度当初から子どもたちから「先生、〇〇を発表したい。」とリクエストが出されたりと、発表会に対しての子どもたちの期待の高さを感じた。高学年では、意見がまとまらずに、内容を決定するために投票をおこなって決定することもあった。いずれにしても、どの学年も発表については非常に意欲的に取り組んでいた。

資料

日本コース小学部音楽発表会について

2007年10月5日 担当 小林

1. 日時 10月20日（土） 午前9：45～11：00

2. 場所 アウデトリオ

3. 参加者 日本コース小学部児童

小1 21名

小2 19名

小3 8名

小4 21名

小5 20名

小6 16名

4. 内容 進行 小林

演奏 小1 「子犬のマーチ」(歌と鍵盤ハーモニカ)

「とんくるりんぱんくるりん」(歌と鍵盤ハーモニカ)

小2 「いるかはざんぶらこ」(歌とバンブーダンス)

「虫の声」(歌) 「ぷっかりくじら」(歌と鍵盤ハーモニカ)

小3 リコーダーメドレー 「小さい花」「かりかりわたる」「さよなら」

歌「ちびっこカウボーイ」「おかしなすきなまほうつかい」

小4 「もみじ」(合唱とリコーダー) 「こきりこ節」(歌と楽器)

「音のカーニバル」(歌と器楽)

小5 「キリマンジャロ」(器楽) その他

小6 「風をきって」(器楽合奏) その他

5. 当日の係分担 児童係 各担任の先生

舞台係 末永先生 クリス先生 宮坂先生

記録係 木村先生

照明・放送 角先生

6. 当日の日程 9：45 児童生徒、保護者入場（小1 舞台袖準備）

9：50 校長先生挨拶 小1 発表（小2 舞台袖準備）

10：00 小2 発表

10：10 小3 発表

10：20 小4 発表

10：30 小5 発表

10：40 小6 発表 閉会のアナウンス（小6は舞台の上）

4. 取り組みの経過と結果

小学1年生は、ドからソまでの5音を使っての鍵盤ハーモニカでの演奏を行ってきた。5音の聴き取りも行い、教師が演奏した簡単な5音を使ってのメロディーを鍵盤ハーモニカで演奏できるようになってきた。

また、歌にあわせてオブリガートも演奏できるようになってきたことで、歌唱と鍵盤ハーモニカを組み合わせた演奏を発表することにした。身体表現も入れながら明るく元気に発表することができた。

小学2年生は、1年生でやってきたことを土台にして、ドからドまでのオクターブの8音で鍵盤ハーモニカの指導をしてきた。1学年のときと比べ、8音を使ってのハ長調の曲を演奏できるようになり技能の上達が顕著に現れた。歌唱では、役割分担による歌唱もスムーズに流れるようになり、これに身体表現をプラスして「虫の声」の発表をおこなった。バンブーダンスは、子どもたちにはとても人気のある題材である。夏休み前に終了した題材であるが、毎時間やりたいとのリクエストが出てくる。2年生は人数も多く、バンブーの数も限られているため一組のバンブーに4～5人で跳ばなければならなかったが、子どもたちは楽しみながら難しい課題にチャレンジし、発表することができた。



小学校3年生は最初にソプラノリコーダーに接する学年である。導入段階を丁寧にしながらも、基礎的な技能の習得のみに偏らないようにすることも大切である。ソプラノリコーダー演奏の学習を始めてから約3ヶ月。ソラシドレを使った曲でメドレー演奏をおこなった。物語性のある歌を題材にして、効果音を創作する活動の発表もおこなった。小学3年生は8人という小学部の中で一番少ない児童数であったが、そのことを感じさせない明るく元気のよい発表ができた。

小学4年生では、3年から学習してきたソプラノリコーダーの演奏がかなり上達し、ほとんどの児童が、ハ長調の曲であれば、聴き取りができ演奏することができる。また、歌唱では、本格的な二部合唱の学習に入り、発声も頭声発声を中心とした発声になってきた。合唱とソプラノリコーダーの他にオリジナルの和太鼓を「こきりこぶし」に入れ発表を行った。



1・2・3年生に比べ表現力の幅が広がってきた4年生らしいバラエティーにとんだ発表ができた。

小学5年生では、器楽合奏を通しての表現活動を行った。また、4学年から継続して行ってきた二部合唱も、二つの旋律の重なった響きになれ、心地よいハーモニーを味わいながら歌えるようになってきた。器楽ではソプラノリコーダーの二部合奏を中心に、3種類の打楽器も入れた器楽合奏を行った。打楽器の演奏は人気があり、最終的にはクラスオーディションを行って担当を決定した。リコーダーの苦手な児童が、実はリズム感がよく生き生きと演奏していた姿が印象的であった。

小学6年生では、5年生と同じように、器楽合奏と合唱の発表を行った。合唱は二部合唱、器楽合奏では、「ラヴァースコンチェルト」「風を切って」であったが、キーボードを入れるなど工夫ができた。6年生は、週に1時間の授業となることが多く、昨年もそうであったが、運動会の鼓笛隊の練習も重なり、時間が少ない中での発表となってしまった。しかし、あわただしい中でも目標を持って取り組んでおり、この学習発表会で自信をつけ成長し、次の運動会鼓笛隊での発表につながっていった。

5. 考察

音楽科の中で今年度心がけたことは、発表の機会を意図的に設定することである。音楽科の特徴として、表現活動の場合、人に聴いてもらう、見てもらうということが、児童生徒の刺激になり、今後の学習意欲・向上につながっていく。特にこりセオでは、行事も多く、音楽科が関わるのが少なくない。これらを経験した子どもたちは、確実に意欲や技能の面で向上していく。この、人前で発表する経験、そして、自分たちの発表が感動を生むという体験が、さらに豊かな表現へとつながっていく。また、特に中・高学年では、子どもたち同士が励まし合いながら教え合う中で育っていく姿を目の当たりにし、学級全体が発表に向けて協力して取り組んでいくことの大切さを感じた。発表することで、一生懸命さや心をこめる大切さ、お互いを思いやる心の大切さ、心一つにすることの大切さ、そして感動することの大切さ、他人を感動させることのすばらしさを学んだ子どもたちである。これらの経験が、音楽科の学習だけでなく、子どもたちの心の成長にとっても重要な役割を果たしているのではないかと感じる。

6. まとめおよび今後の課題

小学部では全体的に発表することに対して抵抗感なく、むしろ楽しんでいる。これは、メキシコの明るい太陽の下で育った開放的な児童の特徴でもあるように感じる。授業の中だけでいつも同じ教師が児童を評価し、励ますよりは、たくさんの聴衆からの反応が児童にとっては、励みになっている。音楽発表会の他にも運動会、30周年記念行事、学院朝会、学習発表会、学習参観日、卒業式などでの発表を通して確実に表現する力をつけているように感じる。これらの発表する機会を、音楽の授業とうまく結びつけて、子どもたちの技能や意欲につなげていきたい。

小学1年生から中学3年生まで音楽専科として行うことができ、これらの継続した実践が可能であったと感じる。子どもたちの成長過程にじかに触れながら指導できるという環境に恵まれた。しかし、毎年痛感することは、高学年になるにつれて、音楽科の時数が少なくなる事である。全校単位で行事を進めていくにあたって時数の違いが大きく影響している。たとえば、中学部では、合同合唱を行い、PTA総会、30周年記念式典、仮卒業式などで合唱を発表してきたが、練習時間の確保が難しく、子どもたちの貴重な自由時間を使うことが多々あった。約週1時間の授業だけで合唱を創っていくのは困難さを感じた。しかし、音楽発表会を始め、様々な音楽行事が感動を生んでくれるのは、他の教員の協力体制ができてからであり、大きな支えとなった。